

ムンバイ駅イメージ
資料提供: JICA

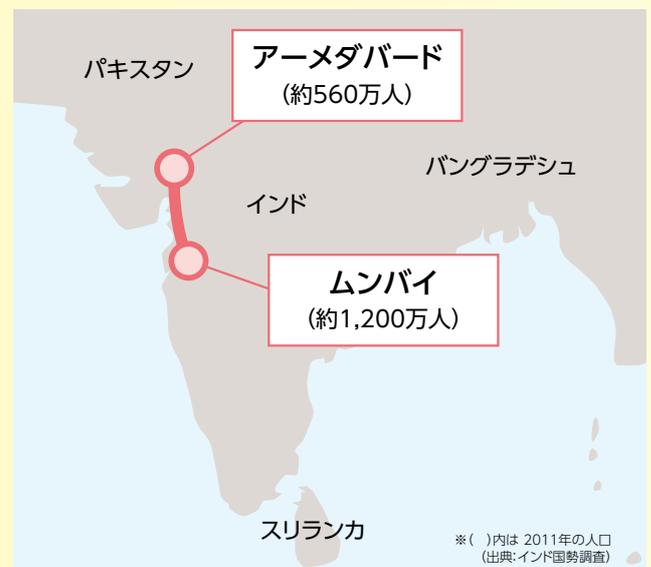
インド高速鉄道プロジェクトの推進

地球環境問題への意識の高まりや新興国の経済成長のなかで、環境にやさしい公共交通機関として世界的に鉄道への関心が高まっています。現在、世界各地で多くの鉄道プロジェクトが検討されており、世界の鉄道市場は今後年平均2.6%成長し、2020年には約22兆円の規模へと拡大することが見込まれています。そのような状況のなかで、当社は、国内外の企業と協力しつつ、オペレーション&メンテナンス分野(列車の運行や設備の保守など)に関する計画・管理・支援・実施など、私たちの持つノウハウを活かして、グローバルな事業展開に挑みます。特に、成長著しいアジアを重点地域と位置づけるとともに、各地域の鉄道プロジェクトに対応していきます。

◎インド高速鉄道プロジェクトの概要

約 13億人の人口を有する大国のインドでは、急速な経済成長に伴い、都市間の交通網整備の必要性が高まっています。インド鉄道省は2009年に「インド鉄道ビジョン2020」を策定し、その中で高速鉄道としてはムンバイ・アーメダバード間の路線が最優先とされました。そして2015年日印首脳会談の共同声明でムンバイ・アーメダバード間の高速鉄道路線が日本の高速鉄道技術(新幹線システム)および経験を利用して整備されることが確認されました。

この路線において2016年3月に高速鉄道の技術基準の作成などのコンサルティング業務を当社のグループ会社である日本コンサルタンツ(株)が受注しました。また、同12月に高速鉄道の設計、入札業務などを行うコンサルティング業務を日本コンサルタンツ(株)が共同事業体(JV)で受注し、現在業務を行っています。



◎最近の状況

2016年3月に作成を開始した技術基準は、日本の新幹線で実績のある技術を基本としつつ、気候・地震・電源などインドの諸条件を踏まえながら作成しています。また、当初受注した設計業務に加え、2017年7月より、研修センターの設計、入札支援業務を日本コンサルタンツ(株)が開始し、過去に前例のない大規模なプロジェクトのコンサルティング業務を行っています。

人材育成に関しては、2017年7月、インド高速鉄道公社の幹部が来日し、鉄道会社を運営するにあたって当社幹部と意見交換を行ったほか、JR東日本総合研修センターにおいて線路保守作業や訓練設備等を視察し、当社の人材育成や技術継承への取組みについて理解を深めていただきました。

この他、日本コンサルタンツ(株)ではインド鉄道省職員研修運営管理業務を受注し、鉄道省中堅社員が日本の鉄道施策・システム・技術に関する知見を習得するための支援を行っています。

今後もJR東日本は、グループ会社の日本コンサルタンツ(株)が行っているこれらの業務において、新幹線オペレータとしての経験を活かし、技術的支援・人的支援を行っていきます。



インド高速鉄道公社幹部と当社幹部 当社研修センター視察の意見交換の様子



線路保守作業視察



インド高速鉄道起工式(2017年9月)

VOICE



本社 国際事業本部
インド高速鉄道部門
主席

加藤 洋子

私は車両担当として、E5系をインド向けにカスタマイズする際の課題の把握や、当社と日本コンサルタンツ(株)の窓口としての業務を担当しており、第一線でコンサル業務を担っている方々を、しっかりバックアップしていきたいと考えています。

本プロジェクトは当社にとっても初めての挑戦であり、どのように進んでいくのかも分からないなか、手探り状態で進めてきました。さまざまな課題が次々に発生するなか、国内関係箇所との調整やインド側との交渉を行い、少しずつ山を越え、前進してきました。課題が多いことは大変ですが、その分、関係者がそれぞれの専門分野を活かし、協力して解決していこうという雰囲気があり、そのような熱気ある職場で働けることは、楽しい面もあります。

また、インドではスケジュールがなかなか決まらない、決まっても直前に変更になるなどが日常茶飯事で、せっかく調整した行程が変更となったり、急遽現地出張が発生したりと臨機応変な対応を求められることが多く、最初のころは苛立つこともありましたが、しかし、相手が変わらないなら自分の考えを変えるしかなく、今ではスケジュールとおりに行かなくて当たり前といった気持ちで、心に余裕をもって対応するようにしています。

これからプロジェクトが進む先には、さらに多くの山々がそびえたっていることと思いますが、いつか、インドの大地に新幹線が走り、インドの方々に愛される存在になる日が来ることを夢見ています。



日本コンサルタンツ株式会社
インド高速鉄道推進本部
主任

川原 大典

日本コンサルタンツ(株)はインド高速鉄道建設事業における詳細設計調査をJICAより受注しており、このうち土木構造物に関する詳細設計調査が私の役割です。特に駅部の施工計画を担当しており、現地の状況等を勘案した計画の検討を行っています。

当初、日本の鉄道建設プロジェクトとルールが異なることや、インド高速鉄道公社等の協議先と英語で会話しなければならないことに苦労しました。そこで、インド特有のルールの把握、英語学習等に努めました。さらに、慣れないインド訛りの英語については、インド訛りの特徴を意識したり、紙に書いたりして会話するなど工夫をしました。

今、かねてより興味があった海外での建設プロジェクトに携わる事ができ、大きなやりがいを感じながら日々の業務を行っています。ムンバイ・アーメダバード間に高速鉄道ができることによって、人の往来が円滑、活発になり、インドの経済的、文化的発展に貢献することを願っています。そして、プロジェクトの推進、日々の業務を遂行する事で社会的責任を果たしていきたいと考えています。

関連記事についてはP86をご参照ください。▼